様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　２１年　８月　１７日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2009（2007 年度は育児休業に伴う交付申請の留保）
課題番号：１８５３０４９１
研究課題名（和文）　社会的情報の処理における感情制御過程の影響

研究課題名（英文）　Effects of affect regulation on social information processing

研究代表者
田中　知恵　（TANAKA TOMOE）
昭和女子大学・人間社会学部・講師
研究者番号：５０４０７５７４

研究分野：心理学
科研費の分科・細目：社会心理学
キーワード：社会的情報の処理　感情制御過程　感情制御方略

１．研究計画の概要

(1)感情制御過程と情報処理に関する検討
①感情改善方略に対する期待感を実験的に操作し、処理対象の精緻化程度を測定する。（研究 1）
②感情制御方略に対する期待感の個人差を測定する尺度を作成し（研究 3）、実験参加者の期待感を測定して情報処理に及ぼす影響について検討する。（研究 4）

(2) 感情制御の自動性に関する検討
処理対象から生じる感情の予期を非意識的に操作し、対象の精緻化程度を測定する。（研究 2）

(3)感情と情報処理における統制的過程に関する検討
自動的な感情制御過程が統制的な過程により制限を受ける条件について、社会的制約の有無を操作して検討する。（研究 5）

２．研究の進捗状況

(1)感情制御過程と情報処理に関する検討
①研究 1 を実施した。実験参加者に自伝的記憶の想起と音楽聴取によりネガティブ感情を導出した後、別の課題として感情のコントロールに関するエッセイを呈示し、感情改善方略に対する期待感を操作した。続けて映像刺激の説得メッセージを呈示し、背景音楽によりポジティブもしくはネガティブな感情を予期させ、メッセージの精緻化程度を測定した。その結果、感情改善期待感が高い場合には、ネガティブな感情が予期されるメッセージの精緻化程度が低まり、ネガティブ感情改善の働きが示唆された。
②研究 3 を実施した。感情制御方略に対する期待感の個人差尺度を作成し、その妥当性ならびに信頼性について確認した。研究 4 では、この尺度を用いて実験参加者の期待感を測定し、文章を読ませることでメッセージに対する感情の予期を操作した。続けてメッセージを呈示し、その精緻化の程度を測定したところ、感情改善の期待感が高い場合、ネガティブ感情改善方略を取ることが示された。

(2)感情制御の自働性に関する検討
研究 2 として感情制御の自働性を検討するため、2 つの実験を実施した。実験参加者には 3 つの課題と告げ、最初に単語対の記憶課題によりニュートラル語に対してポジティブもしくはネガティブな非意識的連合をつくった。次の課題として、映像視聴によりポジティブもしくはネガティブな感情を導出し、最後に印刷媒体広告（研究 2A）、映像広告（研究 2B）を呈示した。いずれの実験においても、ネガティブな感情状態にある場合に、ネガティブな感情の予期が生じる対象への評価が低まり、ネガティブな感情改善が非意識的な過程であることが見出された。対照的に、ポジティブ感情維持の自働性を示す結果は認められなかった。

(3)感情と情報処理における統制的過程に関する検討
今後、研究 5 を実施するための準備として、

実験刺激の作成に取り組んでいる。

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。
（理由）
当初の予定どおり、これまでに研究１から研究４までが実施され、本年度は研究５を実施し、感情と情報処理における統制的過程について検討する予定である。

４．今後の研究の推進方策
最終年度である本年度は、研究５の実施に加え、これまでの研究データを統一的な基準により再分析し、統合的なモデルの提示を目指す。そのためデータをコーディングしまとめる必要性があり、これらの作業補助者雇用に対しても研究費を使用する予定である。研究成果は学会等で発表し、学会誌への投稿を目指す。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　１件）
① 田中知恵、沼崎誠、ネガティブ・ムード制御方略に対する期待感の効果、心理学研究、79、107-115、2008、査読有

〔学会発表〕（計　２件）
① 田中知恵、感情制御の志向性と感情予測に関する検討、日本パーソナリティ心理学会第 17 回大会、2008 年 11 月 16 日、お茶の水女子大学
② 田中知恵ほか、非意識的な感情の予期がメッセージ処理に及ぼす影響、日本心理学会第 72 回大会、2008 年 7 月 19 日、北海道大学

〔図書〕（計　２件）
① 田中知恵、放送大学教育振興会、社会心理学の基礎と応用、2008、144－159
② 田中知恵、ナカニシヤ出版、感情研究の新展開、2006、21-42